

三木町の家

(2009年9月完成)

清水康弘

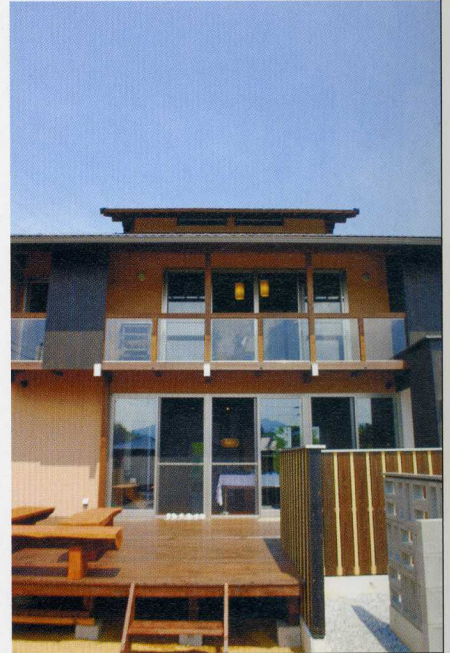
Yasuhiro Shimizu



越屋根のある古民家風住宅

「瓦屋根と手入れされた庭、味わい深い塀のある旧家の間に続く小路。その先には緑豊かな田園風景が広がるというロケーション。「三木町の家」は、そんな周囲の風景に溶け込むようにバランスが重視された佇まいです。まず印象的なのが、越屋根を持つ古民家風の外観。この越屋根と焼杉の壁が建物全体に落ち着いた印象を与え、さらに周囲の風景に対しても違和感なく見せています。

家の柱と梁に使用されているのは、高知県嶺北産の12cm杉材でとても丈夫な構造。もちろん内部には木をふんだんに使い、構造材を室内側に見せることで木組みの美しさや木材そのもののデザイン美を魅せる「現



し」の収まりとしています。さらに、木材は建材となつてからも呼吸をしているため、現しにすることで見た目だけではなく、建物の寿命を長くするという効果もあるのだそう。周囲の美しい自然や町並みとともに、ずっと残ってほしいと感じる住まいです。

構造	木造
工法	在来工法
敷地面積	463.89m ² (約140.32坪)
延床面積	138.16m ² (約41.32坪)
1階	82.53m ² (約24.96坪)
2階	55.63m ² (約16.82坪)
設計期間	2008年2月～2008年12月
工事期間	2009年3月～2009年9月
設計監理	清水設計 一級建築士事務所
施工	建築工房ライズ株式会社

宇多津町の家

(2009年12月完成)



三井武一

Takeichi Mii



開放感抜群のデッキテラスで のんびりと過ごしたくなる家

当初2階建てを希望していた建て主が、敷地の広さを生かすために提案された平屋プランを気に入って進められたという「宇多津町の家」。杉板の扉を開けて中へ入るとまず目に入るのが、広いデッキのある中庭部分。杉の立柱で構成された玄関ポーチは、屋根が合わせガラスになっていてとても開放的です。玄関はシューズクロークが分離され、引き戸を開けると姿見の鏡が現れます。屋外に趣味で釣った魚を捌く場所が欲しいというご主人のために、業務用シンクと収納庫を設置。また、洗

面コーナーから直接出入り可能な物干し場は風通しが良く、奥さんのご希望通り外部からは一切見られることがありません。デッキのある中庭を中心に、家族の生活スタイルを考えながら各部屋にゆるやかなつながりを持たせた空間。天気の良い日には窓を全開にして遠くの山を眺めながらテラスで読書でもしたくなるような、気持ちのいい住まいになりました。

構造	木造	設計期間	2009年1月～2009年4月
工法	在来工法	工事期間	2009年6月～2009年11月
敷地面積	330.72m ² (約100.04坪)	設計監理	M計画設計室
延床面積	126.03m ² (約38.12坪)	施工	富士建設株式会社

